

地歴 問

地理歴史等

令和2年度(前期日程)

注意事項

- 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 問題は1冊(本文24ページ、下書き用紙2枚)で、解答用紙は1枚です。下書き用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので、引き抜いて使っても構いません。なお、問題冊子と下書き用紙は持ち帰って構いません。
- すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお、受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 50001 番の場合 →

5	0	0	0	1
---	---	---	---	---

- 1) 世界史、2) 日本史、3) 地理、4) 倫理、政治・経済、5) ビジネス基礎、以上5科目のうちから1科目を選んで答えなさい。さらに、選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 →

					2
--	--	--	--	--	---

- 解答は、解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書きなさい。なお、字数制限がある場合、算用数字及びアルファベットに限り、1マスに2文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には1マスを使用すること。ただし、例えば「問1」ならば「1」とのみ書いても構いません。なお、問題番号は問題ごとに指定された解答字数に含めます。

(例) I の「問1」の場合 → I

1			5
---	---	---	---	---	---	--	--	---

世 界 史

I 次の文章は、ルターがその前年に起こった大規模な反乱について 1525 年に書いた著作の一部である。この文章を読んで、問い合わせに答えなさい。(問 1, 問 2 をあわせて 400 字以内)

農民たちが創世記 1 章、2 章を引きあいにして、いつさいの事物は、自由にそ
して[すべての人々の]共有物として創造せられたものであると言い、また私たちは
みなひとしく洗礼をうけたのだと詐称してみても、そんなことは農民にはなんの役
にもたちはしない。なぜならモーセは、新約聖書においては発言権をもたないから
である。そこには私たちの主キリストが立ちたもうて、私たちも、私たちのからだ
も財産も挙げてことごとく、皇帝とこの世の法律に従わせておられるからである。
彼は「皇帝のものは皇帝にかえしなさい」と言われた。パウロもローマ 13 章において、
洗礼をうけたすべてのキリスト者に、「だれでも上にたつ権威に従うべきである」と言っている。(中略)

それゆえに、愛する諸侯よ、ここで解放し、ここで救い、ここで助けなさい。領
民にあわれみを垂れなさい。なしうるものはだれでも刺し殺し、打ち殺し、絞め殺
しなさい。そのために死ぬならば、あなたにとって幸いである。

(「農民の殺人・強盗団に抗して」『ルター著作集』第 1 集第 6 卷より引用。但し、
一部改変)

問 1 下線部は「農民たち」によって提出された要求を比喩的に説明したものであ
る。具体的にはどのような要求であったか述べなさい。

問 2 「聖書のみ」というルターの主張は、各方面に大きな影響を及ぼした。「農民
たち」が考える「聖書のみ」と、ここでルターが表明している意見の相違はどの
ようなものであり、どのような理由で生じたと考えられるか、述べなさい。

Ⅲ 20世紀中葉において資本主義世界の霸権がイギリスからアメリカ合衆国に移行した過程を、19世紀後半以降の世界史の展開をふまえ、第2次世界大戦・冷戦・脱植民地化との関係に必ずしも言及して論じなさい。(400字以内)

III 次の文章 A, B を読んで、問い合わせに答えなさい。(問 1, 問 2 をあわせて 400 字以内)

A (1860 年代において、当時の朝鮮の政権と思想的方向性を同じくする) 奇正鎮・李恒老は(中略) 摂夷論を開陳した。たとえば奇正鎮は、「洋胡」(西洋諸国)と条約を結べば、儒教の道徳や礼制はたちまちに滅び、「人類」(朝鮮の人間)は禽獸となると危機感を表明した。これは、「邪説」を排撃して「正学」(朱子学)を崇ぶという「衛正斥邪」の内容をさらに拡大して、西洋諸国を夷狄(「洋夷」)・禽獸であるとして全面的に排斥し、儒教道徳・礼制、それに支えられた支配体制を維持擁護しようとする主張であった。

西洋諸国を夷狄・禽獸と視るのは、① 意識によるものであった。(中略)
西洋諸国は儒教を否定する「邪教」の国であるから、夷狄あるいはそれ以下の存在である禽獸ということになる。

B (1876 年に) 李恒老の門人の崔益鉉は開国反対上疏を呈した。崔益鉉は条約調印に反対する理由として五点を挙げたが、そのなかには次のような点があった。

「日本との交易を通じて、『邪学』が広まり、人類は禽獸に化してしまう。」「内地往来・居住を拒めないから、日本人による財貨・婦女の略奪、殺人、放火が横行して、人理は地を払い、『生靈(じんみん)』の生活は脅かされる。」「人と『禽獸』の日本人とが和約して、何の憂いもないということはありえない。」

崔益鉉の描く日本人像は、奇正鎮の描いた「洋夷」像と何ら異なるところがない。実際に崔益鉉は上疏において、倭(日本)と洋は一心同体であるとする「倭洋一体論」を展開した。

(糟谷憲一「朝鮮ナショナリズムの展開」『岩波講座世界歴史 20 アジアのく近代』より引用。但し、一部改変)

問 1 ① は、17世紀の国際関係の変化を受けて高揚した、自国に対する朝鮮の支配層の意識を示す言葉である。これを記しなさい。

問 2 ① 意識がいかなるものであり、どのような背景があったのか、また、それが1860～70年代にどのような役割を果たしたのかについて、それぞれ国際関係の変化と関連付けて述べなさい。